

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393100223		
法人名	株式会社大木家		
事業所名	まちのオアシスグループホーム横山 ユニットB		
所在地	愛知県安城市横山町字赤子1-63		
自己評価作成日	令和3年9月29日	評価結果市町村受理日	令和4年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393100223-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、自分らしさを大切に安心して暮らせる第2の家を経営方針に掲げ、馴れ合いやなまなまではなく、できる限りお一人おひとりにあったサービスの提供としてまごころ込めた接遇をさせて頂くと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただいております。
また当グループホームは、ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒にを基本として認知症のお年寄りをありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援しています。
お年寄りの方が一方的に介護を受けるのではなく、職員と共にご自分のペースで、出来る範囲で日常生活にかかわって頂き生きがいが持てるよう支援致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てのモダンな事業所は、2ユニット横並びで広々とした贅沢な造りとなっている。開所当時1ユニットからスタートし、2年目を迎え2ユニット満床で稼働している。大きな傾斜の屋根の窓から陽が入り居間も居室も明るく、シックな装飾は心地よい大人の生活空間となっている。周りには田畑も広がり、近隣にはコンビニや小学校、児童クラブなどがあり、散歩などを通して地域と関わりやすい環境にある。新型コロナウイルス感染症情報や地域状況を確認しながら少しずつではあるが、地域との繋がりを持つように努めている。会社の理念と今年度のスローガン「チームワークを大切に相手の気持ちになった援助と思いやり」を目標に掲げ、思いやりや笑顔あふれる暖かい環境の中で、一人ひとりの希望を尊重し、安全性に配慮した支援を心がけている。開設と同時にコロナウイルス感染症の影響を受け、計画をしていた様々な地域交流や催しが滞る中で、職員と入居者が気持ちを揃え事業所で楽しめることを考えたり取り入れたりして、メリハリのある生活ができるように工夫をしている。広い駐車場で日向ぼっこやお茶会を楽しんだり、車で少人数で公園へ出かけたりして四季の移ろいを感じ取れるようにしている。明るく広いリビングで卓球や将棋を楽しんだり、背もたれのしっかりしたソファに座り入居者同士がおしゃべりをしたりコーヒーを嗜んだり、テレビや新聞などを心行くまで見たりして職員と共に穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の会議では、開始冒頭に全員で理念を読み上げて、理念の共有をおこなっている。また、理念を玄関先に掲げ、常に意識をして目に入るよう努めている。	事業所理念を玄関に掲示し、今年度のスローガン「育てる気持ち、育つ心」を目標として職員は、入居者一人ひとりが笑顔で暮らし、安心、安全に配慮した支援をしている。事業所理念を全職員の研修ファイルに添付し、毎月の会議や研修の際には復唱して共有を図り、行動の指針として日々のケアを振り返りながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日には散歩に出かけ、地域の方との交流の機会を持っているが、コロナ渦ということもあり、機会が持てないこともある。近所の駄菓子屋ヘレクの一環としてお菓子を買に行く。	町内会に加入し、自治会発行の「横山だより」などで情報を得ている。コロナ禍において止まっていた町内会の行事「ふるさと祭り」が開催され、入居者と一緒に参加し楽しむことができた。最近では毎日の散歩で野菜を頂いたり、駄菓子屋に買い物に行くなど地域の方と挨拶を交わしながら少しずつ交流を始めている。今後も新型コロナや地域状況を確認しながら、地域での買い物や飲食店での食事、ボランティアの受け入れなどが今以上にできることを心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催の際に、認知症における情報の発信を心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事にて事業所の状況は報告はできているが、コロナの影響で会議は無開催となっている。議事録を配布する際に、包括や自治会などに顔を出して意見交換を行っている。	運営推進会議の年間計画を作成し年6回開催している。新型コロナウイルスの影響で今年も引き続き書面での開催となっている。運営状況やヒヤリハット、事故報告などはデータ化を図り分りやすく報告している。入居者家族、自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員に予定議事と議事録を配布し意見を聴取している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点や問題点等について都度相談を実施し、できる限り市との連携関係を築けるように努力している。	行政担当窓口には、運営推進会議の議事録を持参したり、介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝えている。必要に応じ、市の職員とFAXやメールを利用して連絡を取り合い協力関係を築いている。市主催の福祉まつりは中止となったが、いつでも出展できるよう準備している。職員は新型コロナの感染状況を確認しながらズーム研修等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修を実施し、職員全体における身体拘束をしないケアの取り組みを意識している。身体拘束会議を開催し、身体拘束について拘束しない考えを強く持ちケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修や委員会を3か月に1回実施し、拘束となる具体的な行為について正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。会議では、拘束やスピーチロック、ふとした気の緩みや癖から発する言葉遣いなどについて話し合い、周知し共通理解を図っている。日々のケアの中では、「どうされましたか」の声掛けや気づいたことは職員相互で声を掛け合い注意を促している。ユニット間の行き来を自由にして、職員は見守りや拘束感のない暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に内容を把握し、虐待等の防止に心掛けている。特に入浴の際での痣や状態の変化に意識を置き介助を実施している。状況により共用部のカメラで介護状況を確認すると、カメラがある認識において事象発生するリスクをなくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解と活用を考え、利用者により成年後見・保証協会等の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書における読み合わせの実施をしている。また、捺印等も場合により後日にさせていただき、一定の時間を設け契約を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、電話連絡時、面会時に機会を設けている。事務所前にご意見箱を設置し、忌憚のないご意見も頂戴して運営に反映させている。	入居者は日々の関わりの中で思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録し、会議で検討して情報を共有し運営に反映させている。新型コロナの影響もあり、家族からは電話やメール、リモート面会時、衣類の補充などの折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立っている。毎月のお便りや入居者の誕生日には日ごろの様子に写真とコメントを添えて送付し、家族に安心を届けている。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所内においても、従業員用の意見箱を設置しており、意見が出てきた際に都度問題の解決及び可能な内容については運営に反映をしている。	日常の業務の中や必要に応じメモを活用したりして常に話しやすい環境作りに努め、職員からの提案や要望は協議をして運営に反映させている。全職員に人事評価を導入して、自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。管理者は職員と年1回、パート職員は年2回の面談や随時話し合う機会を持ち、業務や職場環境などに反映させている。適性検査CUBICを導入し個人の特性に配慮して職員配置等の改善に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内においては本社の担当をおき、担当での職員面談を定期的実施している。 管理者も普段から職員とのコミュニケーションを重視し、職員配置も含め、改善を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を月2回設け、施設内でもミーティング時に勉強する機会を設けている。また、認知症における基礎研修や実践者研修の参加を可能な範囲で複数名に受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の安城市グループホーム部会の会員や、西三河ブロック会議に入らせていただき、同業者と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、即時入居ではなく、ご本人様のADL・IADL状況を踏まえてできないことを把握し、できる限り安心した生活をできるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、時間をかけてご家族様との信頼関係構築に努め、適宜意向確認を実施している。 また、あいさつや電話連絡を実施し、関係性をより深めていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内や他サービスの利用も考えた中でご入居の検討を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできることは出来るだけ実施していただくようにしている。特に洗濯物干しや洗濯物たたみ等、自身でできる内容については最大限お願いして行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、ご入居者様への面談をお願いしている。ご家族様で行えることは出来る限りお願いして運営をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様における人間関係等のヒアリングも実施しているが、コロナ禍であるため、ご家族以外の面会は極力控えていただいている。代わりに、ハガキやお手紙などで交流の場を設け、馴染みの人との関わりは持っている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、入居者が大切にしてきた物事が続けられるよう支援に努めている。コロナ禍で友人や家族とは施設PCから入居者とリモート面会したり、手紙のやり取りなどを実施している。日常の家事仕事や趣味で巾着袋を作る方や編み物、卓球の練習、男性同士で将棋を指すなど今まで培ってきた経験を日常に生かしている。買い物や馴染みの喫茶店などの外出は状況を見ながら行う予定にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士での関係を支援するために、全体でのレクレーションや毎月の行事を実施している。個々での関係性も築けてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時においてできる範囲でのフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様からの話や生活歴を辿り、出来る限りその人の思いや暮らしの希望を確認し、個別ケアを重視したサービス提供を心掛けている。	日常の入居者同士のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートや個人記録に記載して、会議で話し合い共有してケアにつなげている。思いの表出の少ない方は、安心できる関係性をつくり、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。記録の取り方の研修や話を聞く姿勢などは常に意識をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設としての一律的なスケジュールはあるが、体調やその方の思い、それまでの生活環境など、それぞれの状況や希望を把握し、必要時含めてできるだけ沿う形でケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務日誌やサービス提供記録から、日々の心身状態を確認し、状態に変化があった際は職員間で情報共有を実施し、対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランにおいて、ご本人様・ご家族様、職員等の意見を聞き、できる限り現状に即した介護計画を作成し実施している。	入居者の意向や日常の様子を詳細に記録したサービス提供記録を基に、計画作成者が毎月モニタリングをしてその都度計画の見直しを行っている。入居者の意向や問題点、課題について会議で話し合い情報を共有している。必要に応じ、医師や看護師など関係者の意見や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は担当者会議で話し合いを持ち、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録を詳細に記載し、計画更新の際には状況を把握し、反映の上、再度計画作成を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を踏まえ、既存のサービスだけに囚われず、その時々にあったサービス提供をできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会からの「横山だより」で地域のイベント情報などを把握し、地域イベントを地域の方に確認して参加できるときには参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在在宅診療を実施し、かかりつけ医での提供希望がある場合は変更せずに実施をしている。	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いているが提携医に全員変更している。内科は月2回の往診、歯科は月1回の往診や緊急時の治療も行っている。専門科は、家族の協力により入居前のかかりつけ医に継続して受診している。施設内の看護師が医師と連携を取り健康管理に努めている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間対応で提携医や主治医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が施設内において日中帯に1名おり、その者及び在宅診療医師への相談等を日々実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	アセスメント等を詳細に作成しており、緊急救急搬送時においても適宜対応できる体制を整備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期においてご家族及び在宅医と調整を実施し、救急搬送対応及び緊急時対応におけるルールを明確にしている。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度、希望を再確認し計画の見直しを行っている。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員は研修マニュアルに沿って看取りや緊急時対応の研修を行い意識を高めている。入居者の日々のケアの大切さを説明し、家族も一緒に看取る環境なども含め、事業所全体で取り組むよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、勉強会を実施して何かあった場合にも逐次対応できるような体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画・災害計画を作成し、防災訓練の実施もしている。地域との協力体制についてコロナ禍において出来ていない。	年2回、地震や火災を想定し昼間、夜間帯の職員体制で、避難訓練を実施している。入居者による消火訓練や避難誘導、避難経路の確認と訓練終了後に問題点や課題を話し合い改善している。緊急時に備え、カセットコンロを用意し、水や食糧など1週間分以上の備蓄品を保管している。新型コロナウイルスの影響で地域防災訓練は今年度も中止となっており、地域との協力体制を築くことは今後の課題となっている。また、BCP関連として緊急時の対応と対策等については現在作成中である。	想定外の災害が多く起きる昨今、突然の災害に對しいざという時にどの職員も冷静沈着な行動が取れるように消防署の立会の下で避難訓練を実施し、専門的立場からの評価や指導を受け入居者の安全に繋げることを願いたい。また、緊急時に備え、備蓄品のリストや保管場所の確認など訓練時に抱き合わせるなどして全職員に周知管理されることを願いたい。今後地域の事業所として還元できることや地域に依頼したい事などについて話し合い、地域相互に安心、安全な暮らしが得られるよう願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉づかいや声掛けに注意をし、サービス提供を実施している。	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、入居者の個性や人格、相性や性差、病歴などを考慮し、それぞれの立場やプライバシーを損ねない対応をしている。職員は、日々のケアの中で、呼び名を統一し、馴れ馴れしさやつい雑になりがちな言葉使いなど機会あるごとに話し合っている。接遇などの研修を重ねて、知識や技術の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々声掛けを実施し、ご本人様の意向や主張を確認し自己決定できる場面を作るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間軸を主軸とはしているが、できる限りご本人様のペースに合わせて時間を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやおしゃれができるように声掛けや更衣介助を心掛けている。定期的にお化粧をするイベントを設けて楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように定期的にイベント食やおやつレク等も取り入れ一緒に準備、片付けを行っている。	栄養バランスの取れたワンクック食材を購入し、入居者と一緒に野菜を切ったり茹でたり、ひと手間かけて調理し盛り付けをしている。準備や後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。入居者の好きなお寿司を注文して楽しむイベント食や他県の郷土料理を提供して話題作りの一助として楽しむ工夫をしている。おやつレクで桜餅やわらび餅作りなど食への関心が高まるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量等を意識している。また、水分摂取についても注意をし、少ない場合においては声掛けをし摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施し、ご本人様での実施の場合も声掛けや見守りを実施し、清潔保持を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、個々に声掛けを実施している。失敗が多いご入居者様においては早めの声掛けや介助を行っている。	個々の介護記録から排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指し、布パンツの継続や屋間に排便できるよう取り組んでいる。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援と誘導を行っている。体調に応じ夜間のみポータブルを利用し、安心して排泄できる環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の恐れがある場合は在宅医や看護師に相談し、水分摂取や投薬状況を把握し、改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望を確認し、別日に行くなど希望に添える範囲で行っている。	入浴は週3回を目安に行っているが、いつでも入浴できる環境を整えている。左右可動式の浴槽で、お湯や足ふきマットは一人ずつ入れ替え常に清潔を保つようにしている。足のむくみのある方には足浴をしたり、同性介助など一人ひとりの状況や希望に沿った入浴支援を行っている。菖蒲湯やゆず湯など季節や香りを楽しむ工夫をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫してタイミングを見計らい、気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、疲れた場合の休息や適宜安眠を促している。睡眠がしっかりとれるよう、できる限り静かな環境を整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬の一覧を確認し、各自が服薬状況を把握している。また、看護師が適宜状況を把握しており、在宅診療の兼ね合いにおいて調剤においても都度持参いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や役割、趣向を踏まえ、できる限り楽しく過ごせるように心掛けている。また、状況により散歩等も実施し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出を実施している。職員での実施が難しい場合等においては家族と相談し、場合により家族での外出を考えているがコロナの兼ね合いで出来ていない。	一人ひとりの希望や体調を考慮して、天気のいい日には毎日散歩に出掛け、四季の移ろいを感じられるよう支援に努めている。また、施設前の駐車場で日向ぼっこや飲み物を用意してお茶会など外気に触れる機会を大切に支援をしている。新型コロナの影響で外出にも制限がある中、少数ずつ車で公園などに出掛けている。今後状況に応じて喫茶店や外食、ドライブなどを実施していく方向にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理支援は行っていない。 立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から連絡があった場合にお話しをしていただく機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において生活感や季節感を感じれるように清潔で居心地の良い空間をできるだけ整備している。	明るく開放的な玄関ホールやリビングは、壁紙や木調の床にも工夫を凝らし、天井も高く風通しの良いシックで落ち着いた生活空間となっている。居間と食堂で過ごすことの多い入居者の動線を考慮したトイレの配置や間接照明を利用して、安全で快適に過ごせる環境の工夫をしている。季節に合った手作り作品を華美にならない程度に飾り、清潔で居心地の良い大人の生活環境を提供している。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理をしながら入居者を見守ることができる配置となっている。食後は、大きめのソファでテレビを見たり、椅子に掛けて会話をしたりして寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において利用者通しで触れ合う場所として共同のテーブルを配置し、個別で一人になりたい場合はソファで過ごせるように共用空間の居場所づくりを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においてご本人様を使い慣れた物や好みの物を配置し、できるだけ居心地が良いように工夫している。	居室にはクローゼットと洗面台が備え付けられている。ベッドは入居者の状態に応じたタイプを提供している。使い慣れた筆筒や好みの椅子、テレビ、携帯電話など自宅で使用していた物を持ち込み安心できるスペースや環境作りをしている。ぬいぐるみや手作り作品、写真などを飾って自分らしく落ち着いた生活ができるよう配慮をしている。職員と一緒に掃除をして清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部において全体バリアフリーにて安全を整備している。また、できることやわかることを活かすために屋上の開放やご自身でできる事は行っていただく環境を整備している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393100223		
法人名	株式会社大木家		
事業所名	まちのオアシスグループホーム横山 ユニットA		
所在地	愛知県安城市横山町字赤子1-63		
自己評価作成日	令和3年9月29日	評価結果市町村受理日	令和4年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393100223-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、自分らしさを大切に安心して暮らせる第2の家を経営方針に掲げ、馴れ合いやなまなまではなく、できる限りお一人おひとりにあったサービスの提供としてまごころ込めた接遇をさせて頂くと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただいております。
また当グループホームは、ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒にを基本として認知症のお年寄りをありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援しています。
お年寄りの方が一方的に介護を受けるのではなく、職員と共にご自分のペースで、出来る範囲で日常生活にかかわって頂き生きがいがあるよう支援致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てのモダンな事業所は、2ユニット横並びで広々とした贅沢な造りとなっている。開所当時1ユニットからスタートし、2年目を迎え2ユニット満床で稼働している。大きな傾斜の屋根の窓から陽が入り居間も居室も明るく、シックな装飾は心地よい大人の生活空間となっている。周りには田畑も広がり、近隣にはコンビニや小学校、児童クラブなどがあり、散歩などを通して地域と関わりやすい環境にある。新型コロナウイルス感染症情報や地域状況を把握しながら少しずつではあるが、地域との繋がりを持つように努めている。会社の理念と今年度のスローガン「チームワークを大切に相手の気持ちになった援助と思いやり」を目標に掲げ、思いやりや笑顔あふれる暖かい環境の中で、一人ひとりの希望を尊重し、安全性に配慮した支援を心がけている。開設と同時にコロナウイルス感染症の影響を受け、計画をしていた様々な地域交流や催しが滞る中で、職員と入居者が気持ちを揃え事業所で楽しめることを考えたり取り入れたりして、メリハリのある生活ができるように工夫をしている。広い駐車場で日向ぼっこやお茶会を楽しんだり、車で少人数で公園へ出かけたりして四季の移ろいを感じられるようにしている。明るく広いリビングで卓球や将棋を楽しんだり、背もたれのしっかりしたソファに座り入居者同士がおしゃべりをしたりコーヒーを嗜んだり、テレビや新聞などを心行くまで見たりして職員と共に穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の会議では、開始冒頭に全員で理念を読み上げて、理念の共有をおこなっている。令和3年度理念「育てる気持ち、育つ心」を念頭に、職員間の連携や信頼を高め、チームケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には散歩に出かけ、地域の方との交流の機会を持っているが、コロナ渦ということもあり、機会が持てないこともある。近所の駄菓子屋へレクの一環としてお菓子を買に行く。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催の際に、認知症における情報の発信を心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事にて事業所の状況は報告はできているが、コロナの影響で会議は無開催となっている。議事録を配布する際に、包括や自治会などに顔を出して意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点や問題点等について都度相談を実施し、できる限り市との連携関係を築けるように努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修を実施し、職員全体における身体拘束をしないケアの取り組みを意識している。身体拘束会議を開催し、身体拘束につちて拘束しない考えを強く持ちケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に内容を把握し、虐待等の防止に心掛けている。特に入浴の際での痣や状態の変化に意識を置き介助を実施している。状況により共用部のカメラで介護状況を確認し、抑止と監視をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解と活用を考え、利用者により成年後見・保証協会等の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書における読み合わせの実施をしている。また、捺印等も場合により後日にさせていただき、一定の時間を設け契約を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、電話連絡時、面会時に機会を設けている。事務所前にご意見箱を設置し、忌憚のないご意見も頂戴して運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所内においても、従業員用の意見箱を設置しており、意見が出てきた際に都度問題の解決及び可能な内容については運営に反映をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内においては本社の担当をおき、担当での職員面談を定期的実施している。 管理者も普段から職員とのコミュニケーションを重視し、職員配置も含め、改善を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を月2回設け、施設内でもミーティング時に勉強する機会を設けている。また、認知症における基礎研修や実践者研修の参加を可能な範囲で複数名に受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の安城市グループホーム部会の会員や、西三河ブロック会議に入らせていただき、同業者と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、即時入居ではなく、ご本人様のADL・IADL状況を踏まえておくことのできないことを把握し、できる限り安心した生活をできるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際において面談を実施し、時間をかけてご家族様との信頼関係構築に努め、適宜意向確認を実施している。 また、あいさつや電話連絡を実施し、関係性をより深めていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内や他サービスの利用も考えた中でご入居の検討を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできることは出来るだけ実施していただくようにしている。特に洗濯物干しや洗濯物たたみ等、自身でできる内容については最大限お願いして行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、ご入居者様への面談をお願いしている。ご家族様で行えることは出来る限りお願いして運営をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様における人間関係等のヒアリングも実施しているが、コロナ禍であるため、ご家族以外の面会は極力控えていただいている。代わりに、ハガキやお手紙などで交流の場を設け、馴染みの人との関わりは持っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士での関係を支援するために、全体でのレクリエーションや毎月の行事を実施している。個々での関係性も築けてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時においてできる範囲でのフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様からの話や生活歴を辿り、出来る限りその人の思いや暮らしの希望を確認し、個別ケアを重視したサービス提供を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設としての一律的なスケジュールはあるが、体調やその方の思い、それまでの生活環境など、それぞれの状況や希望を把握し、必要時含めてできるだけ沿う形でケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務日誌やサービス提供記録から、日々の心身状態を確認し、状態に変化があった際は職員間で情報共有を実施し、対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランにおいて、ご本人様・ご家族様、職員等の意見を聞き、できる限り現状に即した介護計画を作成し実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録を詳細に記載し、計画更新の際には状況を把握し、反映の上、再度計画作成を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を踏まえ、既存のサービスだけに囚われず、その時々にあったサービス提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会からの「横山だより」で地域のイベント情報などを把握し、地域イベントを地域の方に確認して参加できるときには参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在在宅診療を実施し、かかりつけ医での提供希望がある場合は変更せずに実施をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が施設内において日中帯に1名おり、その者及び在宅診療医師への相談等を日々実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	アセスメント等を詳細に作成しており、緊急救急搬送時においても適宜対応できる体制を整備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期においてご家族及び在宅医と調整を実施し、救急搬送対応及び緊急時対応におけるルールを明確にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、勉強会を実施して何かあった場合にも逐次対応できるような体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画・災害計画を作成し、防災訓練の実施もしている。地域との協力体制についてコロナ禍において出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉づかいや声掛けに注意をし、サービス提供を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々声掛けを実施し、ご本人様の意向や主張を確認し自己決定できる場面を作るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間軸を主軸とはしているが、できる限りご本人様のペースに合わせて時間を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやおしゃれができるように声掛けや更衣介助を心掛けている。定期的にお化粧をするイベントを設けて楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように定期的にイベント食やおやつレク等も取り入れ一緒に準備、片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量等を意識している。また、水分摂取についても注意をし、少ない場合においては声掛けをし摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施し、ご本人様での実施の場合も声掛けや見守りを実施し、清潔保持を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、個々に声掛けを実施している。失敗が多いご入居者様においては早めの声掛けや介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の恐れがある場合は在宅医や看護師に相談し、水分摂取や投薬状況を把握し、改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望を確認し、別日に行うなど希望に添える範囲で行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、疲れた場合の休息や適宜安眠を促している。睡眠がしっかりとれるよう、できる限り静かな環境を整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬の一覧を確認し、各自が服薬状況を把握している。また、看護師が適宜状況を把握しており、在宅診療の兼ね合いにおいて調剤においても都度持参いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や役割、趣向を踏まえ、できる限り楽しく過ごせるように心掛けている。また、状況により散歩等も実施し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出を実施している。職員での実施が難しい場合等においては家族と相談し、場合により家族での外出を考えているがコロナの兼ね合いで出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理支援は行っていない。 立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から連絡があった場合にお話しをしていただく機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において生活感や季節感を感じれるように清潔で居心地の良い空間をできるだけ整備している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において利用者通しで触れ合う場所として共同のテーブルを配置し、個別で一人になりたい場合はソファで過ごせるように共用空間の居場所づくりを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においてご本人様を使い慣れた物や好みの物を配置し、できるだけ居心地が良いように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部において全体バリアフリーにて安全を整備している。また、できることやわかることを活かすために屋上の開放やご自身でできる事は行っていただく環境を整備している。		